

専門・認定看護師会ニュースレター 臨時号

専門・認定看護師会では、専門・認定看護師の活動報告や、各領域の専門知識をワンポイントアドバイスでお知らせするため、ニュースレターを毎月発刊しています。

患者に不快を与えない胃管（イレウス管）の固定方法！

看護のポイント

患者にとっては、絶飲食による口腔内乾燥、胃管（イレウス管留置）による咽頭痛や鼻腔の疼痛を生じます。また、スキントラブルが発生すると、**患者は苦痛により管を自己抜去するなど治療の妨げになったり、治療のために拘束を強いられることもあるためスキントラブルの予防は重要になります。** 鼻腔の疼痛がある場合は、皮膚や粘膜を観察し、固定方法を再検討しましょう。テープの剥離時の角質・表皮剥離は、テープの剥離頻度、テープの剥離方法、テープの角質剥離性等が、内的要因（低栄養、局所の循環不全、高齢等による皮膚の脆弱等）も加わり、スキントラブルの危険因子となるため注意深い観察が重要です。



ケアの目標

- ①確実で安全な固定により、減圧あるいは経腸注入が行えること
- ②皮膚障害を予防あるいは改善すること

【予防方法】

①スキンケア

- テープ固定部位は、皮脂や汗などの分泌物に汚染され、皮膚の浸軟をきたしやすい状況にあります。そのため、**皮膚のバリア機能が低下し、粘着剤から溶解した刺激成分などが吸収されやすい状態になると、様々なスキントラブルを生じてしまいます。** したがって、皮膚のバリア機能を保つ、予防的スキンケアを行いましょう。
- 洗顔などセルフケアが困難な場合は、すでに乳化している洗浄剤「リモイスクリーン」を用いると簡便でかつ皮膚の洗浄と保湿が可能です。
- 鼻の皮膚は、顔の中でも特に皮脂が多い**ため、鼻尖や鼻翼に固定する場合は、粘着テープがはがれないよう**スキンケアによる皮脂のコントロールを図り**、固定部位を検討しましょう。
- 髭は、粘着テープの接触性を低下させ、固定力に欠けるため常に剃っておきましょう。**



院内採用有（物流請求可）

②適切なテープの選択

- 医療用テープは、術後創を始め褥瘡の軟膏処置やドレッシング材の固定など、様々なケアに使用され医療上必要不可欠なものです。しかし、使い方を間違ってしまうとスキントラブルを引き起こす可能性もあるので注意が必要です。
- 素材の違いから、伸縮性や粘着性、通気性などの性質が異なります。
- 安全性を考えると、しっかりとした固定力は不可欠な場合もありますが、剥離する際の皮膚への負担が大きくなり、皮膚障害のリスクが高くなります。
- 粘着テープの粘着剤には、皮脂を吸収する親油性粘着剤が使用されています。アクリル系粘着剤は、アレルギー反応を起こす粘着付与樹脂などの粘着剤構成成分を含まないため、粘着剤の材料に起因するかぶれは比較的少なく、一定浸透性があります。
- 固定するテープの選択基準は、接着性に優れ、伸縮性・通気性・透湿性があり、皮膚への剥離刺激が少ないものが適しています。**



院内採用有（物流請求可）

患者に不快感を与えないために、正しい固定方法はもちろん、日々のスキンケアが重要です。



テープ固定部位は、皮脂や汗などの分泌物に汚染され、不快感の要因となり自己抜去の原因になりやすいため対策が必要です。

ポイント！



工夫内容

- テープを剥す際は、剥離剤「アダプトはくり剤」を使用する。
- テープの貼付部位の皮膚が赤い・乾燥している・脆弱な場合は、皮膚被膜剤「リモイスコート」を散布後にテープ固定を行う。

【固定方法の基本】

断続的に胃管（イレウス管）が皮膚や粘膜に接触・圧迫していると、潰瘍形成の可能性があり、皮膚の観察と固定位置や方向を適宜交換することが必要です。

- ①テープの固定は、皮膚に緊張をかけないよう、引っ張られないで中央部から外側に貼るようにする（図1）



図1

- ②テープをループ状にしてチューブを包み込んで貼ります（図2）

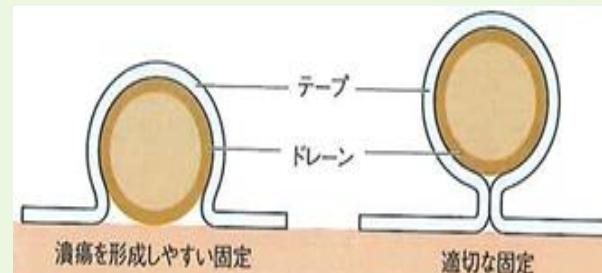


図2

- ③鼻翼に当たって潰瘍が形成されるのを防ぐため、チューブは自然な湾曲を形成するよう固定します（図3）

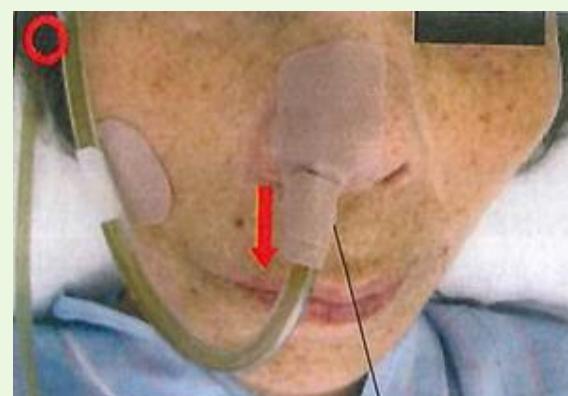
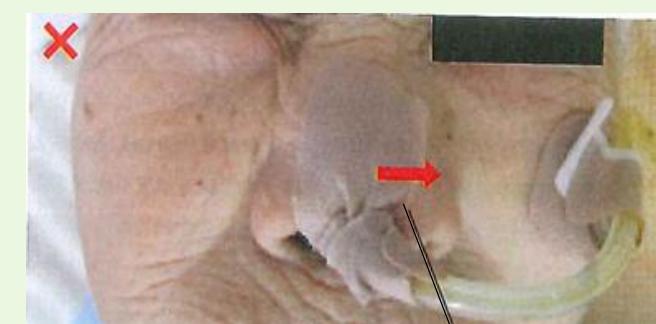


図3

鼻翼に当たって潰瘍が形成されるのを防ぐため、チューブが自然な湾曲を形成するように固定する。



矢印方向に引っ張られ潰瘍・糜爛を起こす。

固定方法	メリット&写真
固定専用テープによる固定	テープをカットする時間が不要で、タイムセービング、コストセービング、ケアの標準化を図ることができる。
鼻の下での固定	土台用と固定用粘着テープを使用する事によって皮膚への緊張を緩和する。 鼻翼の皮脂や汗の影響を受けずに固定が可能である。
病衣での固定	

ポイント!

粘着剤は、固体と液体の中間の性質があり、強く圧着することや時間が経過することで凹凸部分への粘着強度が向上します。

スキントラブルの主要要因

①物理的刺激

テープを剥す時、粘着剤に固着して角質も剥されます。角質がはがれても一次的な反応性充血が起るのみの場合が多いですが、繰り返されると表皮が薄くなって疼痛・発赤・浸出液を伴う滲出性紅斑の状況になります。また、表皮の全層が剥離した場合には、真皮が露出しひらんの状態となります。

②化学的刺激

テープの原材料、並びにテープを貼付する前に付着していた物質が、テープを貼付することで皮膚に浸透していった皮膚炎、テープの材料の中の物質のアレルギー反応によって皮膚炎が起こります。

③細菌の繁殖

毛嚢には、洗っても細菌の残りやすい凹凸があり、細菌が常在しています。そのため、テープが皮膚に貼付されることで、汗の蒸発が抑えられ皮膚が浸軟した状態になります。さらに毛嚢の開口部がテープで塞がれると、毛嚢の細菌の繁殖がより盛んになってかゆみや痛みを伴います。

